

令和6年度 事業計画書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

公益財団法人 克念社

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

育英事業は、昭和7年に克念社が創立して以来、90年以上継続している事業である。

現在、累計では貸費生総数は、1,300名。若葉奨学金給付生は11名となっている。

(1) 令和6年度新規貸費生と貸費学資金について

- ・令和6年度の貸費生募集者数は6名、前年比9名減となった。
- ・令和5年12月7日に貸費生選考委員会を開き、応募者全員を希望通り内定した。
結果、新規採択者は6名(月額4万円4名、2.5万円2名(院生))を予定しており、継続者21名で貸費生は計27名の予定である。
- ・この新規採択者および継続者に対する年間の貸費学資金の総額は1,224万円となる。
- ・なお、令和6年3月末における貸費学資金の総額(残高)は11,068万円となる。
- ・また、令和7年3月末における貸費学資金の総額(残高)は10,209万円となる見込み。

(2) 令和6年度若葉奨学基金給付生について

- ・風間若葉様からの遺贈による特定資産を原資に給付型の奨学金を創設し、平成29年度から給付を開始した。令和6年度の応募者数は4名(うち貸費生との併願は2名)、応募者は昨年比8名の減となった。
- ・令和5年12月7日に貸費生選考会に引き続き、給付生選考会を開催し3名を内定した。継続者は4名で、給付生は計7名、この給付金の総額は168万円となる。
- ・例年庄内地方の各高等学校や鶴岡高専に募集要項を交付すると共に、克念社ホームページ(以下HP)に掲載するなどの周知活動を行って、募集に当たっている。
- ・本年度は、HPの刷新を予定しており、また各校の奨学担当教員と一層のコミュニケーションを図り、育英事業の周知に努めたい。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

- ・国指定重要文化財「丙申堂」と国登録有形文化財「無量光苑釈迦堂」の公開において、HPを刷新し、情報発信力を高めることで、文化財の価値と魅力を広く伝えていく。
- ・国内におけるキャッシュレス決済比率の急激な高まりを受け、丙申堂のおよび釈迦堂において、キャッシュレス決済端末を設置することで、入館者の利便性向上と業務効率化を図る。
- ・30回目を迎える「鶴岡雛物語」(主催:鶴岡雛まつり実行委員会)や5年ぶりに開催予定の「吉田サチ子キルト展」、また市民の文化または芸術活動等のイベント開催を通じて、

文化活動の新たな拠点としての魅力を高めていく。

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

- ・豊かな自然を持つ里山に親しみながら、山林を愛する心を育むと共に、森林を保全するために必要な山の仕事に理解を深めることを目的とし、親子で参加する森林体験学習会を本年度は秋に1回開催する。(5月末～6月初旬に、キルト展開催を考慮)
- ・山林の整備は例年同様、外部業者に委託し、管理費としては従来の実績を踏まえつつ、山林整備に努める。
- ・適期を迎えた杉の立木を伐採し、地球環境の保全のために必要な、山林機能を適切に管理すると共に、収益にも繋げる。今年度は山林収益としては500万円を予算計上とする。

4. 土地・建物の貸与事業(収益事業)

- ・基本財産の土地は、(株)庄交コーポレーションに、また特定資産の駐車場は一般利用者に賃貸している。また運用財産の内本町一丁目の土地・建物は庄内文化センターに賃貸中である。
- ・その他の土地・建物は、(有)パンハウス庄内、(株)荘内ハウジング、(株)鶴岡地区医師会に賃貸している。馬場町の旧金屋の土地・建物は、3月1日より新たに社福)月山福祉会に賃貸する予定としている。
- ・日本仏教研究のため、東京大学文学部印度哲学仏教研究室に対する助成、及び日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究所に対する助成は、例年通り令和6年度も収益事業の中で継続する。そのため研究費として予算100万円を計上する。

以上